

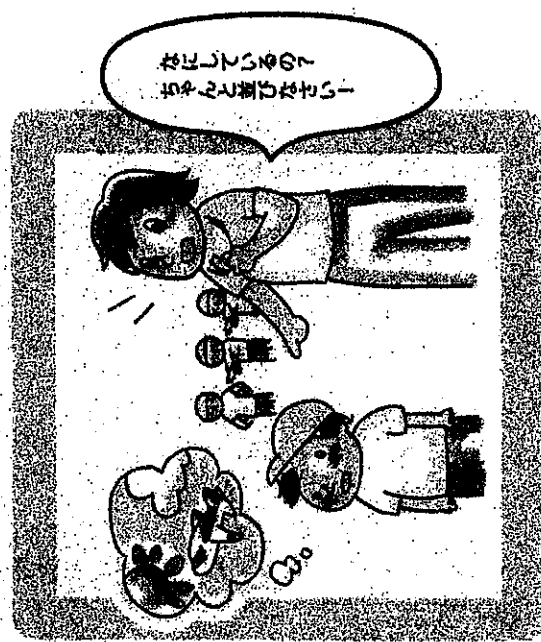
# 特別支援だより No.9

令和3年6月7日(月) 特別支援教育コーディネーター 松田敦子



発達が気になったら⑥

「普通」という枠で比較してしまうと、いつもポーツとしてやる気も元気もない変わった子と評価されることが多くなります。



ぼくは、話を  
見ているだけに  
なんで怒られるのかな

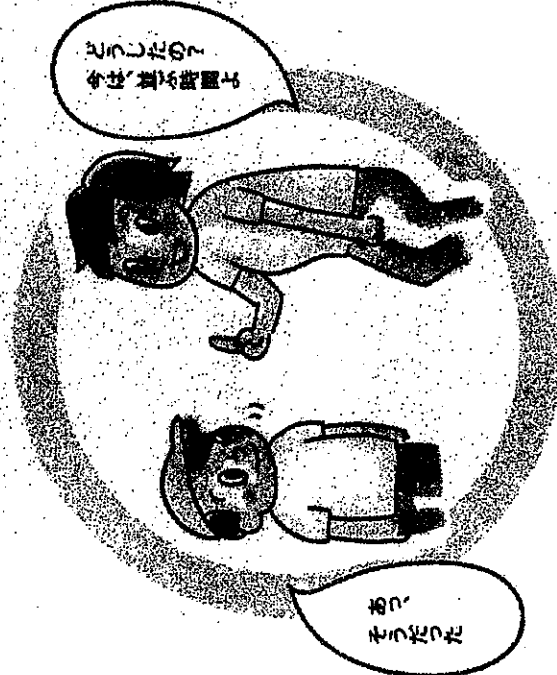
本人の気持ち

いつもポーツとして  
何を考え  
ているのかしら？

POINT

やる気も元気もない、いつもポーツとして見えているように見える子は、先生の指示や場面のふんいきを讀むことが苦手です。そのため「今、なにをすべきか」ということをキャッチすることができずに困っているのです。

「普通」という枠を外してみると、頭のなかが忙しすぎて、今やるべきことを忘れてしまう子なのかもしれません。「何をしているの」と叱るよりも、今なにをすべきか教えてあげることが大切です。



今なにをすべきか  
思い出せるように声  
かけすればいいのね

本人の気持ち

やさしく気づかせて  
くれたから、  
思い出せたよ

本人の気持ち

POINT

「なにをしているの」と叱るよりも、名前を呼んで注目をさせてから指示をかみくだいてわかりやすく伝える工夫が大切です。口頭指示から、視本をみせるモデリング、いっしょにやってみせるなど教え方を工夫していく必要がりますね。

## Q3

# 状況に関係のない発言をするのですが…

自閉症児の多くは、自分の興味のある事柄についておしゃべりを始めてしまうと、何度か声かけをしても、なかなか止めることができません。また、状況に関係ない言葉を突然言い出すことがあります（発言というよりも、コマーシャルのフレーズやアニメのせりふ等のこともあります）。

### 自閉症の特性から考えてみましょう

- ① 人とのかわりがまだ成立しておらず、言葉はしゃべれてもほとんど独り言で、人に対して発言していない段階にあることも考えられます。
- ② 言葉の使い方、会話の仕方が未熟で、かみ合った会話にならないことがあります。
- ③ 耳にした単語からイメージが浮かんで、そこから周囲の状況とはまったく関係のないおしゃべりが始まってしまうことがよくあります。
- ④ その話題を話してよい状況、いけない状況の判断が難しいことがあります。そのため、状況に合わないことを理由に無理におしゃべりを止めようとしたり強く叱ったりすると、パニックになってしまうこともあります。
- ⑤ 自閉症の特徴の一つに遅延エコーリアといって、以前覚えた単語や言葉が遅延して（つまり後から関係ない場面や状況で）出ることがあります。

### 支援のヒント1 ● 自閉症児への指導例

小学校6年生の知的障害を伴う自閉症の男児。授業中、学習に関係のないことを大声で話し、話を止めることがなかなかできません。話すことに夢中で、一人で満足しているようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 日頃から、どのような場面で大声になるのかを観察する。
- ② 大声で話し始めていることを本人に教えるための合図を取り決めたり、身体に触れて注意を喚起しながら「おしまい」等の声をかけるようにする。
- ③ 休み時間などに教師と話をする時間を作れる場合は、前もって話を聞く約束をしておき、授業中に話し始めたら「話は休み時間にしましょう」と言う。
- ④ 学習内容が子どもに合っていないため、「つまらない」というサインと推測される場合には、別課題を与えてみる。
- ⑤ 以前覚えた単語や言葉を、状況に関係なくしゃべり始めた時（遅延エコーリア）には、周囲の子どもがそれを聞いて笑ったりするなど過剰な反応をしないように、学級の児童に話しておくことも必要です。

### 支援のヒント2 ● 高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童への指導例

小学校5年生の高機能自閉症の男児。知的能力は高いのですが、状況判断が苦手で、自分の話したい特定の話題について長々と話すことがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑥ 授業終了前の5分間や休み時間を「話をする時間」とし、可能な限り本人が満足して話せる時間を設定する。
- ⑦ 「自由研究の時間」を作って各自の興味のあることをまとめ、発表する機会を設けたり、教師が各自の興味について努めて話題にすることで満足することもある。（ただし、教師が話題にしたことをきっかけに話が始めて止まらなくなってしまうような場合は、一考を要する。）
- ⑧ 場面にふさわしくない発言をしている時には、「その話題は、今、話してはいけません」と、明確に伝える。
- ⑨ 個別指導の時間を設け、「一人でしゃべりすぎない」「その場に適切な話題を選ぶ」といった、会話のルールや話し方のスキル（技能）を教えていく。可能なら、特殊学級の先生や通級指導教室の先生に相談したり応援を求めるのも重要。
- ⑩ クラスの他の児童が誤解したり不満を抱くことが考えられるので、「本人には悪気がなく、ついつい話をしてしまうこと」を説明し、「話し始めたら、そっと教えてあげる」ようにクラス他の児童に指導する。